

視覚障がい者の一票を叶える「投票補助具」を県内の多くの自治体で導入実現

公明党 鈴木ひでし

私が昨年2月の県議会で提言した「視覚障がい者に配慮した投票環境の整備」について、昨年10月の「第50回衆議院議員総選挙」において県内多くの自治体で「投票補助具」が導入されました。で、ご報告いたします。

点字・代理に代わる方法を

県によると県内には約1万8千人の視覚障がい者がいらつしゃいます。この方々の投票参加を支える制度は、これまで

点字を使った「点字投票」か、誰に投票するかを第三者に伝えて代筆する「代理投票」の制度しかありませんでした。

この結果、昨年10月の衆議院議員総選挙では、県内33市町村中26の市町村が全投票所及び期日前投票所で「投票補助具」を導入しました。投票所数では県内約95%で導入されたこととなります。

「代理投票」は「誰に投票するか」を第三者に伝えなければならず、周囲の人に聞こえてしまうのではないかと不安な気持ちになる方もいます。さらに、人によっては他人に伝えること自体が投票にあたっての心理的な障壁になってしまふことも想像されます。

このテンプレート、すなわち「投票補助具」は、A6サイズの透明なプラスチックケースの一部分に穴が空いており、その周りをテープで囲って凹凸をつけ、その中に投票用紙を挟み込むことで、表面を触ればどこに候補者氏名を記入したらよいか分かるようになっていたものです。

厚木の例を全県拡大へ提案

厚木市議会議員選挙でこの「投票補助具」が全投票所に設置され、7名の方が利用されました。

そこで私は、この「投票補助具」が他の自治体にも広がれば視覚障がい者の方への大きな支援になると考え、県内全ての市町村でこの「投票補助具」を導入できるようにして、

提案者として、「投票補助具」の導入に向けた県の取組をしっかりと見守っていくとともに、誰もが投票しやすい環境整備促進に向け、引き続き取り組んでまいります。

私が昨年2月の県議会で提言した「視覚障がい者に配慮した投票環境の整備」について、昨年10月の「第50回衆議院議員総選挙」において県内多くの自治体で「投票補助具」が導入されました。

私が昨年2月の県議会で提言した「視覚障がい者に配慮した投票環境の整備」について、昨年10月の「第50回衆議院議員総選挙」において県内多くの自治体で「投票補助具」が導入されました。

私が昨年2月の県議会で提言した「視覚障がい者に配慮した投票環境の整備」について、昨年10月の「第50回衆議院議員総選挙」において県内多くの自治体で「投票補助具」が導入されました。



投票補助具の例



モットーは「まかせて安心!
いのちと生活を守る!鈴木ひでし。」

第109代神奈川県議会副議長、県監査委員、公明党県議団団長などを歴任。厚生常任委員会、社会・健康対策特別委員会

HP <http://www.hideshi-suzuki.com/>